

1. 本事業のきっかけと目的

成人ケースの中で、大学在学中に自己理解促進や福祉制度（就労移行支援など）に繋がってれば早期退職の予防、二次障害の発症予防、退学の予防が可能だったケースが散見する。相談の傾向から、大学在学中に自己理解を深める中で支援機関の活用やストレス対処やセルフケアのスキル獲得の必要性が見えてきた。

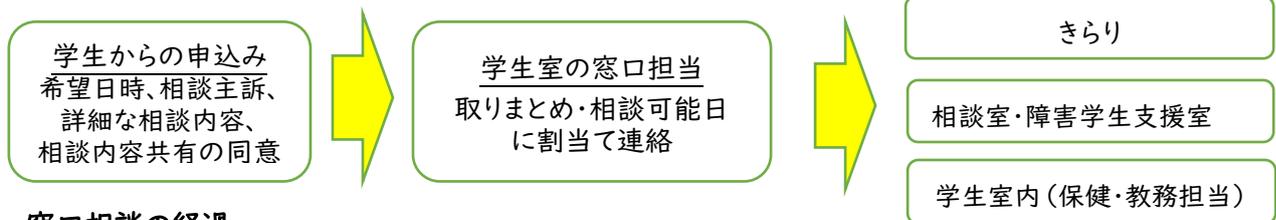
当センターでは、大学在学中から発達障害に関する情報、支援を受けられる情報などを提供し、大学卒業後（または在学中も）にも相談できる支援体制を紹介したい。その一環として、大学在学中に当事者の相談にのり、特性理解を支援したい。これらに関して、出張型の相談体制を静岡県立大学と協働して開始した。

2. 実施内容

日にち	令和5年4月27日(木)、5月16日(火)、6月6日(火)、6月29日(木)、 7月18日(火)、9月19日(火)、11月21日(火)、令和6年1月25日(木) 全8回
時間	① 10:40~ ② 12:10~ ③ 13:20~ ④ 14:40~ 1時間/回
相談員	静岡市発達障害者支援センター「きらり」スタッフ 社会福祉士、公認心理師 各1名(2名にて相談を行う)
対象者	静岡県立大学に通う学生(学部生、大学院生、短期学部生)

3. 実際の受付から相談のながれ

申込は、学生室の相談申込システムで行う。



4. 窓口相談の経過

6月末までに4回の窓口相談を実施し、毎回2人から3人の相談を行った。

各回に1~2名の相談申込がある。予約が空いている時間に飛び込み相談も1件みられた。

5. 相談の傾向と成果

大学1年生や大学院生は授業や研究で忙しく、4年生は就職活動が忙しいため、外部の相談機関を利用する時間的余裕がない方にとって出張窓口相談はニーズに合っていた。

相談内容では、授業に集中できない、コミュニケーションや人間関係の苦手さ、他者評価への不安といった発達障害の特性に当てはまるものだけではなく、二次障害を疑うものもあった。

本人の状態に合わせ、受診を勧めたケースもあった。

出張窓口相談の相談者は、いずれも未受診であり、家族に相談できていなかった。申込時に相談内容を学生室と共有する許可を得ており、二次障害などが危惧される学生を学内の支援に繋げていただけるようスムーズな連携が取れた。

6. 現時点での課題と今後の見通し

大学生支援の特徴であり課題なのは、本人が親元を離れて生活する学生が多いことである。学業に支障が出ていない学生は、家族が本人の困り感に気づけない。また、距離が遠いため本人と家族と一緒に窓口相談へ来てもらうことが困難な学生もいる。物理的な距離の問題も含め、家族にも本人を理解してもらう支援の課題が見つかった。このようなケースは、出張相談から当センターの相談へ繋ぎ、時間をかけて本人の自己理解と家族の理解をサポートしたい。ケースとしての相談であれば、窓口相談よりも柔軟にスケジュールが組め、Zoomなどを用いて遠方の家族とも面談が可能である。当センターの相談と出張窓口相談をより効果的に組み合わせたい。

今後の見通しとして、大学側より経済的に困窮している学生の相談も行って欲しいと要望をいただいた。今

後は経済的に困窮している学生も相談対象としていく予定でいる。福祉や公的扶助の制度などにつなげて生活の立て直しを図る。

長期休みなどに大学の教員向けに研修会等を検討中である。

今回と同じような枠組みであれば他の大学でも実施が可能と考えられる。しかし、現状は職員を他の大学へ派遣する余裕がないため見通しは立っていない。